

令和6年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①論理的な思考力を養い、主体的・対話的で深い学びを実現する指導をする。 ②教育課程の実施状況を評価し、その改善を図る。 ③プログラミング教育を通して論理的に考え、自ら課題解決できる力を育成する	①学習内容の確実な定着のために、予習復習の機会の充実を図る。 ③「自ら課題解決ができる」ことに、より重点を置き生徒の能力を育成する。	①新たな内容を指導する際に、既習内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定する。 ③各教科の授業の中にプログラミング教育の要素を取り入れる。	①単元領域等の系統性を確認し、内容理解が不十分な生徒について、個別指導の充実が図れたか。 ③生徒が自ら問題解決できるようになったか。 ③「論理的思考力」を中心に「問題解決ができる」生徒の育成というテーマでの研修を行い、必要性を職員間で共有することができた。	①物事に係る原理原則の考え方を丁寧に説明することで、学校内外での個別最適な学習の充実化を図ることができた。 ③「論理的思考力」を中心に行なった研修により、課題解決ができる人材を育成することができた。	①生徒参加型授業が活発化しているが、知識や技能の質向上に繋がる授業展開が実施できているか手立ての検討が必要である。 ③今後は、DXハイスクール事業と融合させて、ソフト面の充実を図り、課題解決ができる人材を育成する必要がある。	①ICT機器の活用及び生徒参加型授業が定着しつつあるが、いかに学力の定着に繋げるかを検討する必要がある。 ③プログラミング教育の考え方が浸透してきたが、継続的な取組みが必要である。	①ICT機器の活用及び生徒参加型授業が定着しつつあるが、いかに学力の定着に繋げるかを検討する必要がある。（再掲） ③プログラミング教育の視点要素を取り入れ、課題解決力育成に向けた授業展開を模索する。	①各教科の特性を踏まえつつ、職員のスキルアップをとおして、クロームブックを積極的に活用する。 ③全教科でプログラミング教育の視点要素を取り入れ、課題解決力育成に向けた授業展開を模索する。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①生徒情報を全職員での共有化を、教育相談コーディネーターを中心としてはかり、教育相談体制を充実させる。 ②学業との両立に留意し、部活動の適切な運営に努める。	①生徒情報を全職員で共有し、担当学年以外の生徒に対しても適切な対応ができるようにする。 ②生徒とのコミュニケーションを十分にとり、生徒の興味・関心・思いをしっかりと考慮したうえで効果的な活動を行う。	①生徒情報の共有化のために、生徒情報交換会を年に3回開催する。 ②「部活動指導ガイドライン」に基づいた適切な活動時間等を設定し、生徒の目的や目標に応じた活動の場を設定する。	①生徒情報交換会が定期的に開催されたか。臨時のケース会議等が適切に開催されたか。 ②部活動アンケートで「目標や練習の目的を意識して、活動している」「部活動と勉強の両立」「部活動の状況に満足」の結果が半数を超えたか。	①全職員による生徒情報交換会を5月、7月、12月の年3回を開催し、生徒の対応について共有をすることできた。 ②「部活動・同好会活動チェックシート」のすべての項目において「当てはまる」が77.8%という結果が得られた。	①生徒情報交換会の情報が多岐にわたり、会議の時間に余裕がない。情報の精査や時間設定を検討していく。 ②約2割の生徒が、「部活動と勉強の両立」で、「どちらともいえない・できない」を選択している状況を共有するとともに、改善に取り組む。	①教育相談体制の充実をとおして、今後もより一層、情報共有を確実に行い、生徒が安全かつ安心して学校生活を送れるように努める必要がある。 ③部活動が活発であるものの、「部活動と勉強の両立」に関する具体的策を講じる必要がある。	①校内組織等をとおして校内の情報共有や外部との連携はある程度できている。今後は、より早期発見と迅速な対応が必要である。 ③部活動加入率(85%)から部活動活性化は図られているが、部活動を効果的に行う必要がある。	①校内組織の見直しを行い、また、年2回実施する「サポートドック」や職員間の情報共有等をとおしてプッシュ型面談を実施する。 ③部活動と学業の両立に関する調査を実施して、職員間で共有、対応を行う。
3	進路指導・支援	①生徒が主体的に進路を開拓できるような仕掛けをし、変化の早い社会に柔軟に対応できるような能力を育む。	①生徒のキャリア形成を促すための、進路行事・情報共有の組織化を図り、生徒の進路開拓意識を高め、生徒が主体的に行動できるようにする。	①各学年に応じた進路講演会、説明会等をおこない、進路意識を高め、生徒が主体的に進路情報の収集ができるようにする。	①各学年の進路行事が計画的に実施されたか。	①学校説明会・分野別説明会・文理選択講演会等の計画的に実施できた。	①生徒が自主的に学習に取り組むようにするためのキャリア教育に関する講演会や、コンテンツの有効利用を促すための手立てを講じていく必要がある。	①生徒への様々な情報提供にとどまらず、保護者対象の説明会を早い時期の段階で実施したこととは評価できる。今後は、さらに効果的な方法を模索する必要がある。	①生徒及び保護者への情報提供は評価できる。今後は、実施時期及び周知の徹底が課題である。（再掲）	①新たに、効果的な情報提供方法を構築して、生徒が主体的に学習に取り組めるよう努める。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②生徒自ら進路について考えるための情報を、教員が生徒より先回りして支援できるような、進路に関する教員のスキルアップをめざす。	②的確な進路情報の提供を迅速にできる組織づくりをおこない、新課程入試にしっかりと対応する。	②新課程にも対応した最新の情報分析・発信をおこなう。	②職員対象の講習会が定期的に実施されたか。	②職員対象に適宜、進路情報に対する説明・分析等をおこなうことができた。	②年内入試や、総合型選抜に関する情報を職員で共有し、生徒に発信する。	②職員対象の説明会等で情報共有をした点は評価できる。今後は、生徒への効果的な還元方法を検討する必要がある。	②職員対象の説明会等の実施により情報提供は評価できる。今後は、効率的な方策を探ることが必要である。(再掲)	②生徒の進路実現を目指し、職員を対象として説明会を実施して生徒に還元する。
4	地域等との協働	①様々な場面で地域及び外部機関と連携した教育活動を展開し、生徒の学びを深める。 ②防災意識を高める機会を提供し、地域に信頼される学校作りを推進し、地域に貢献する。	①外部の人材や教育力を活用し、生徒の視野を広げる。 ②地域と連携し、非常時に応できるネットワークを構築する。	①PTA や外部機関と連携し、講演会や研修会企画し実施する。 ②生徒の防災意識を高め、非常に適切に行動できるようにする。	①保護者及び生徒のニーズにあった講演会や研修会を提供できたか。 ②防災訓練を実施できなかったか。また地域住民が参加したか。	①PTA と協力して、2年生を対象にした金融に関する講話を実施した。 ②防災訓練を2回実施(近隣住民も参加)した。また、生徒に自宅周辺の危険個所をハザードマップで確認させ、防災委員が非常食や簡易トイレの作り方などを紹介した。	①PTA 役員会等の機会をとらえて保護者のニーズを探り、講演会のテーマを決定する必要がある。 ②火災を想定した避難訓練を実施して、避難経路等の確認をし、必要に応じて見直しを行う。	①地元企業等の外部機関との連携、修学旅行の事前学習で外部人材を活用した点は評価できる。今後も、あらゆる場面で外部人材の活用を検討する必要がある。 ②地域住民の防災意識の向上に伴い避難訓練に参加依頼しているが、今後はさらに校内の整備状況を再確認して円滑に対応できるようにする必要がある。	①今年度は積極的に取り組んだことは評価できる。今後は、いかに継続でできるかが課題である。 ②地域の特性を踏まえて、今後も近隣住民とともに、防災訓練を実施し、地域のニーズに応えていくことが必要である。	①PTA 講演会については講演会の実施後にアンケートを実施して、ニーズに合った内容となるようになる。 ②学校運営協議会等をとおして、より一層、地域との連携をとりながら、避難訓練の充実を図る。
5	学校管理 学校運営	①教職員の働き方改革を推進し、会議の効率化をはかる。 ②業務についてはダブルチェックを行い、不祥事防止に努める。	②成績、進路、及び入学者選抜業務関係等において、ダブルチェックを心がけて、不祥事防止に努める。	②業務に係るマニュアルの内容を事前に全職員で共有して、業務にあたる。	②マニュアルの内容を確認して、事故を未然に防ぐことができたか。	②成績、進路関係及び入学者選抜業務等については、マニュアルをとおして作業内容を確認した。	②ヒヤリハットの事例があり、未然に防ぐことができたものの、今後はより一層、ダブルチェックを心がけて、事故未然防止にあたる。	②事故の原因は、緊急対応等による焦りも考えられる。忙しい時こそ気持ちは余裕を持って冷静に対応してもらいたい。	②事故に繋がる大きなミスはなかったが、とにかく地道に当たり前のことを当たり前に行うことが必要である。	②マニュアルの内容を職員全体で共有し、継続的に、地道に行う。